

トキソプラズマ感染に関する研究

長崎大学熱帯医学研究所

松本慶蔵

研究目的

今日、トキソプラズマ感染症（Tp 症）の血清学的診断法については一定の具体的方法がなく、かなりの混乱が見られている。そこで、我々は、現在一般に測定されている Tp 血中抗体価の意義を詳細に検討することにより、その抗体価を指標として、診断と、その後の処置に関する検討を行った。

対象及び方法

妊婦 1,973 名・新生児 19 名・網脈絡膜炎等の眼疾患 34 名・重症末期患者 17 名・リンパ節炎 3 名で、血清抗体を採取し、Tp 血中抗体価を間接赤血球凝集試験（IHA 法）にて測定した。IHA test には、トキソ HA-KW（協和）を使用し、特異 IgM 測定には、Protein A（アブソープ G・化血研）で IgM 成分を分取後、IHA 法にて抗体価を測定した。

成績

1. 長崎市妊婦における Tp 抗体陽性率

平均 6.4% で、加齢に伴って抗体保有率が増加する傾向が見られた。単純に推測すれば、年間約 0.2% が Tp 原虫に罹患しており、今日においても妊娠期間中に感染する可能性は決して低いものではないと思われる。

2. 妊婦と他疾患との Tp 抗体陽性率の比較

健康妊婦 7.0%、流産・死産・奇形児出産婦 16.2%、眼疾患患者 32.4%、重症末期患者 24%、リンパ節炎 100% で、健康妊婦に比して他疾患で高い陽性率が見られ、これらの疾患と Tp 感染との関連が示唆された

が、健康妊婦以外の症例が少なく、年令等の因子も詳細に検討していない為、以上の成績から結論を出す事は出来なかった。

3. 妊婦及び他疾患での Tp 特異 IgM 抗体検出率の比較

妊婦に比して、眼疾患・リンパ節炎での検出率が高く、両疾患が急性感染によって発症する頻度が高いことを示唆するものと思われる。又、妊婦で特異 IgM 抗体が検出された 2 名からは、先天性 Tp 感染児は出産されなかった。

4. 経時的 Tp 血中抗体価の判定に関する検討

経時的に測定された IHA 抗体価の意義に関して検討した。8 倍以上の変動を示すものは全体の 5% であったが、pair 血清による再検では、これらも実際は 4 倍以下の変動に止まっていた。以上から pair 血清による同時比較診断の必要性がよよく確認された。

5. 特異 IgM 抗体測定の適応基準に関する検討

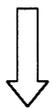
IHA 抗体価の変動による急性感染の診断が困難な場合や妊婦での早急な診断を要する場合には、特異 IgM 抗体の検出が重要となるが、如何なる症例で特異 IgM 抗体を測定しなければならないかの基準が必要である。その判断の基準を求めため、IHA 抗体価と特異 IgM 抗体価との相関を調べたところ、特異 IgM 抗体が検出された 9 検体中 8 検体が IHA 抗体価 1,280 倍以上に分布しており、更に 1,280 倍以上の検体での特異 IgM 抗体検出率は 33% に及ぶのに対し、640 倍以下での特異 IgM 検出率は 1.3% であった。以上から、Tp 急性感染時には、高い IHA 抗体価の上昇と同時に、患者血中に特異 IgM 抗体が出現

してくるとも考えられる。しかし特異 IgM 抗体測定法にはなお解決すべき問題があるので、その基準については、なおその結論を保留したいと考えている。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



研究目的

今日,トキソプラズマ感染症(Tp 症)の血清学的診断法については一定の具体的方法がなく,かなりの混乱が見られている。そこで,我々は,現在一般に測定されている Tp 血中抗体価の意義を詳細に検討することにより,その抗体価を指標として,診断と,その後の処置に関する検討を行った。